

付加価値作業を実現する 生産設計と設備最適化セミナー

～ 生産技術者にとって必要なコスト知識の習得と失敗しない意思決定のやり方とは ～

(旧名称：生産技術者のためのコストダウンの見方・考え方習得セミナー)

開催日時	2025年 6月12日(木)～13日(金) 2026年 2月 3日(火)～ 4日(水)	オンライン	オンライン	各回とも2日間 10:00～17:00
対象	<ul style="list-style-type: none"> 企業で生産設計、設備投資などの意思決定に関係している管理者、スタッフ 生産技術・製造技術部門の管理者、スタッフ 現場の改善、コストダウンを推進されている方々 製造部門の管理者・監督者、スタッフ 			
講師	小川 正樹氏 JMA専任講師 (株)MEマネジメントサービス 顧問 マネジメントコンサルタント・技術士(経営工学)			
参加料(税込)	法人会員：118,800円/1名 会員外：129,800円/1名			

※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。
※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。
<https://www.jma.or.jp/membership/>
※お申し込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申し込みください。

本セミナーのねらい

ものづくり現場では、材料を加工、変形、変質させることで付加価値を付ける作業と置き置き、運搬など付加価値のない作業があります。

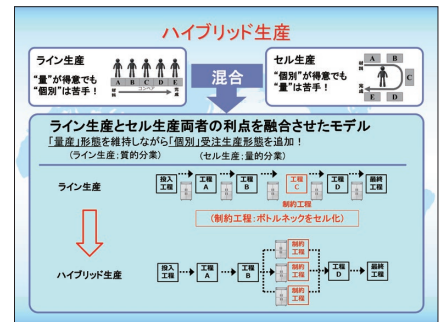
付加価値を付ける作業の割合を増大するには、ムダを無くした生産設計と設備の最適化が必要になります。設備の最適化が進んでいない工場では、設備費の割合が増大しています。

本セミナーでは、生産技術者にとって必要なコスト知識の習得と付加価値を付ける作業を増大する生産設計手順、設備の最適化で失敗しないための意思決定について講義と演習、事例を活用しながら体系的に指導します。

本セミナーのポイント

- 付加価値追求、コストダウンに結び付く原価の視点を解説します。
- 付加価値を付ける作業を増大する生産設計法を学んで頂きます。
- パラメータ設計により、ばらつきの少ない設備の生産条件設定手順を習得できます。
- 設備購入、設備更新、設備のリースなど目的別の意思決定の方法を体得できます。
- 意思決定に必要な投資対効果の算出方法を演習を事例を交えながら解説します。

◆事前準備について：事前にお送りするExcelデータを用意していただきご参加ください。



■ プログラム

2日間 10:00～17:00 [昼食] 12:00～13:00

1日目：付加価値作業を増大する生産設計

- 生産技術視点に必要な原価の基礎知識**
 - (1)ものづくりと原価のしくみ
 - (2)材料費・労務費・製造経費の計算
 - (3)直接費と間接費、変動費と固定費とは
 - 演習 生産ロットが減少すると原価はいくらになるか
- 生産技術視点のコストダウン余地を追求**
 - (1)生産技術段階のコストダウンの焦点は加工費
 - (2)付加価値と限界利益から加工費をコストダウンする製品の発掘
 - (3)加工費の基本機能、補助機能、ロスとコストダウン余地
 - 演習 売価と原価から加工費をコストダウンする製品を求める
- 付加価値を付ける作業だけで工程を設計**
 - (1)最適生産設計に必要なIEと品質工学
 - (2)デザインアプローチで生産設計に挑戦
 - (3)工程、作業の機能を見直して工程系列の追求
 - (4)ライン生産とセル生産を統合したハイブリッド生産に挑戦
- ムダを無くした最適設備を設計・選択**
 - (1)パラメーター設計で最適設備条件を確立し標準化
 - 演習 パラメーター設計を体験
 - (2)自動化の容易性と効果の検討
 - (3)自動化の優先順序の決定

2日目：成功する意思決定の最適解

- 意思決定の基礎を理解**
 - (1)3種類あるお金の計算
 - (2)意思決定の原則とは
 - 演習 埋没原価、増分原価、機会原価を考え意思決定
 - (3)5年後のお金の価値を計算
 - 演習 利息や金利を加味した意思決定
- ケースで学ぶ意思決定の実践**
 - (1)設備など過剰投資を抑制するプロセス
 - (2)新規を目的とした意思決定のやり方
 - 回収期間の短い案と利益の多い案のどちらにするか?
 - (3)取替を目的とした意思決定のやり方
 - 使用2年の現有設備を新規設備に取り替えるか?
 - (4)省力化を目的とした意思決定のやり方
 - 運搬の省力化にはフォークリフトとAGVのどちらが有利か?
 - 検討テーマ 設備を新設するか、移設するかの意思決定
- ケースで学ぶ意思決定の成功ポイント**
 - (1)新規設備は設備能力を有効に活用
 - 演習 ロボット導入の効果から投資額の上限を設定
 - (2)既存設備は工数が少ない設備を選択
 - (3)AIやMTシステムを活用して設備を維持管理

※生産技術者のレベルアップには、標準時間のスキルが欠かせません。
【「標準時間の設定と活用」実践セミナー(JMA100342)】をご活用ください。

※プログラム内容は変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

